

平成30年度 中部地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日 時 : 平成30年12月13日(木) 13:30~15:30
2. 場 所 : TKP 名駅桜通口カンファレンスセンター3階ホール 3E
3. 出席者 : 藤田委員長、石田委員、沖野委員、奥野委員、駒田委員、西條委員、辻本委員、中村委員、長谷川委員、松尾委員、山村委員
4. 議 事
 - (1) ダム等の定期報告
 - 1) 小里川ダム
 - 2) 矢作ダム
 - (2) 平成29年度 年次報告及び平成30年の出来事
 - (4) 審議概要等の確認

(1) ダム等の定期報告について

1) 小里川ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた小里川ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、小里川ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、小里川ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

・なし

ii) 利水補給

・なし

iii) 堆 砂

・なし

iv) 水 質

・底泥からの栄養塩の溶出についてモニタリングを継続すること。成層期では水温成層が形成されており、表層への影響は小さいと考えられる。と修文すること。

v) 生 物

・水辺の国勢調査の昆虫類調査、植物調査や環境基図調査時において、ヒメカンアオイに産卵したギフチョウの卵を確認すること。また、周辺の森林状態に注意して引き続き生育状況を監視していくこと。
・外来魚駆除活動によりブルーギル等が減少したことと、活動をやめたことでブルーギルが増加したということがわかるように表現を改めること。

vi) 水源地域動態

・地域活性化のために連携している組織、内容などを現地のわかりやすい箇所に表示しておくこと。小里川ダム管理支所の1階の展示室に掲示している砂防カード等の入手方法をわかりやすく広報すること。

○ 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

(2) ダム等の定期報告について

1) 矢作ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた矢作ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、矢作ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、矢作ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

・なし

ii) 利水補給

・なし。

iii) 堆 砂

・なし

iv) 水 質

・なし

v) 生 物

・特定外来生物について、ダム管理区域が供給源とならないように、見つけた場合はすみやかに駆除することを明確にした方が良い。また、駆除した結果をモニタリングできると良い。

・オオクチバスとブルーギルについて、生息が継続して確認されているが、駆除方法の検討にとどまらず試験的にでも実行に移すべきである。

・ダム湖周辺の道路沿いの、ダム建設時に植栽されたと思われるサクラやモミジなどについて、ツル性植物が巻きつくなど景観面での影響もみられるため、地元と連携しながら適正に管理し景観維持に努めて欲しい。

vi) 水源地域動態

・なし

○ 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。